

ボール遊びが出来ないから出来るへ

背景

スポーツ庁健康スポーツ課によってスポーツの現状に対する調査が行われた(図1)。現状のスポーツに満足していない人が50%以上で、不満に感じている人が多いことがわかる。

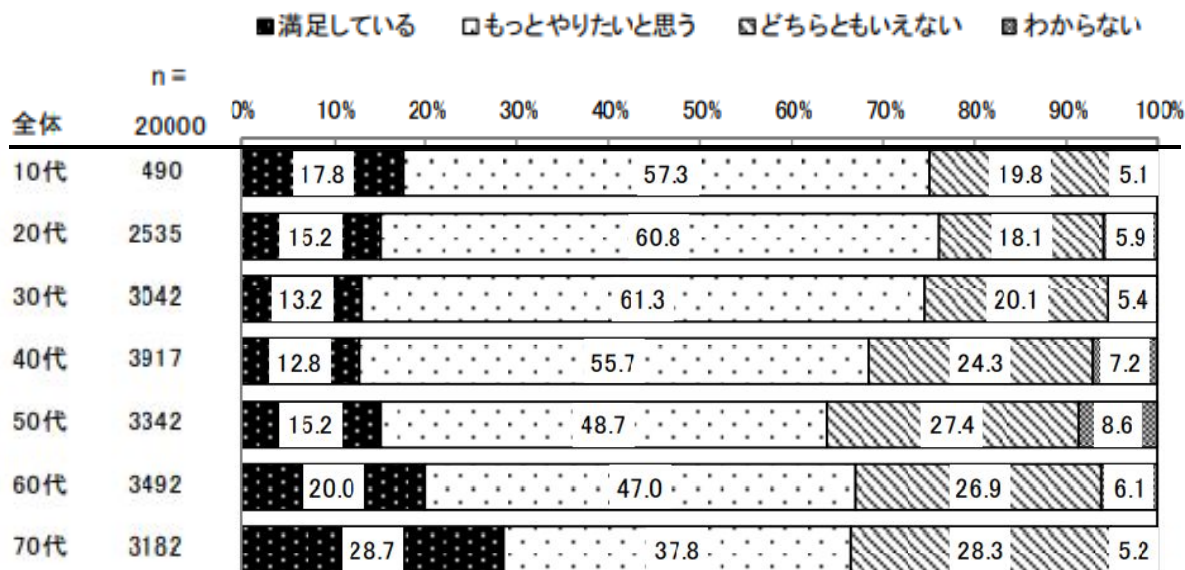


図1 スポーツに対する意識調査(2020年)

出典：スポーツ庁健康スポーツ課「スポーツの実施状況等に関する世論調査」

現状

福岡市の調査で、今現在の大人がスポーツの利用施設に求めること

- 1位：身近に利用できる施設の増設
- 2位：施設利用費を安くしてほしい
- 3位：ロッカーやシャワー室の充実

参照：「福岡市スポーツ振興計画」
中間見直し検討委員会

一方で小学生(5年)～中学生(2年)を対象とした調査

4人に1人の割合でボール遊びが出来る公園を求めている結果となり、子供においてのボール遊びが重要で、お金がかからない公園を求めおり、公園の主役は子供と考えようと述べられている。参考：総務省行政評価局



大人も子供もスポーツが出来る場所を求めている、
スポーツに対してあまりお金をかけられないというのが現状である。

現状

現在の大学生が何のスポーツを直接観戦がしたいかという2016年の調査データがある(左下赤枠)。この調査結果の捉え方として直接観戦したいと思う程に興味があると捉えられる。一方で興味なしは約8%おり、図1のデータにてわからないを選択した平均割合の約6%と割合はほぼ同等と言える。

	全国	福岡県立大学の生徒分布
野球	46.2%(1位)	55.8%(1位)
サッカー	45.6%(2位)	33.3%(5位)
バレーボール	31.2%(3位)	44.2%(2位)
バスケットボール	29.9%(4位)	34.6%(4位)
興味なし	7.9%(12位)	7.8%(10位)

参照：福岡県立大学人間社会学部紀要



1年間でスポーツに参加した人口(2018)

野球*	: 550万人
サッカー	: 380万人
バレーボール	: 460万人
バスケットボール	: 370万人

*キャッチボールのみも含む

参考：公益財団法人 日本生産性本部



バレーボールやバスケットボールといった遊具が身近にないスポーツがランクインしており、多くの人に参加していることが分かり、ボール競技が人気であることがわかる。

ボール遊びにおける問題

公園にてボール遊びが禁止されている1番の理由

ボールの飛ぶ方向や速さによって、人に危害が出てしまう。

危害が出なければ良い

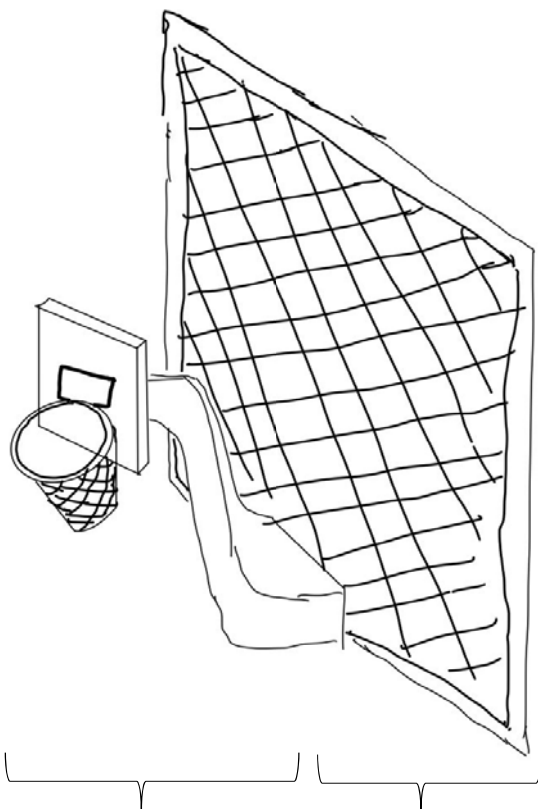
危害を抑える為に以下の種目と項目で、現状の公園で実施が可能か分析・検討する。

種目	項目				
	試合中	得点となる時			遊具の設置をした場合のボール遊び
		入った時	外した時		
野球	ボールの飛ぶ方向	ボールの速さ(軌跡)	ボールの速さ	ボールに追いつけるか(子供)	出来ない
サッカー	全方向	早い(真っ直ぐ)	早い	ほぼ無理(0%ではない)	出来ない
バレーボール	全方向	早い(真っ直ぐ)	早い	ほぼ無理(0%ではない)	出来ない
バスケットボール	全方向	遅い(アーチ状)	遅い	ほぼ出来る(100%ではない)	出来そう

ボールの速さが比較的遅く軌跡がアーチ状というバスケットボールは、子供でも追いつけることが出来、人に危害を与える前に防ぐことが可能と言える。特に追いつくことが困難なバスケットゴール裏等の場所さえ防げば、バスケットボールは出来ると言える。

提案内容・アイデア

公園に”バスケットゴールとネットが一体化した遊具”の設置



バスケットゴール

ネット(3m~5m×3m~5m)

メリット

- ・ボールが飛んでいく方向を制限できる。
- ・全面にフェンスやネットを設置するより費用を抑えることができる。
- ・バスケットリングでダンクをしてもネット側の重量があることで、倒れる可能性を小さくできる。
- ・ネットをよじ登ってもバスケットゴールが重たい事でネットが倒れる可能性を小さくできる。
- ・ボールがフェンスに当たって出る音による騒音問題に対して、ネットを使用することで対処が可能である。

デメリット

- ・プレイ中にボールが外に出ないという保証が出来ない。
- ・景観の一部が変わる。

ご高覧頂きありがとうございました